

# 内管修繕A班

地震により被害を受けた内管の修繕、簡易ガス団地(特定製造所)の復旧および公営住宅の機器修繕等の任務に当たった。中でも最大の任務である内管の修繕については、仙台ガス工事協同組合の工事人27社の協力のもと、出動件数で約3,700件の対応に当たり早期復旧と二次災害の防止に努めた。

内管修繕A班の初動対応は簡易ガス団地(12団地、2,472戸)の復旧対応のほか、都市ガス地区の閉栓隊に合流し閉栓作業に当たった。震災発生当日は津波の被害が甚大な荒浜団地を除く11カ所の簡易ガス団地の緊急点検を行ない、このうち9団地については感震機の作動により供給を停止したが、センチュリータウン支倉台と県営亀塚住宅の2団地には異常が無く供給を継続した。翌日には供給停止9団地の閉栓を完了し、その後内管修繕を開始するまでの期間は、簡易ガス団地の供給再開に向けた準備と、都市ガス地区の閉栓作業に当たった。

当初は原料確保の見通しが立たず、簡易ガス団地供給再開の遅延が懸念されたが、各方面に対する原料手配に奔走し、3月22日から停止9団地の開栓作業を開始し、3月25日には9団地すべての供給を再開した。

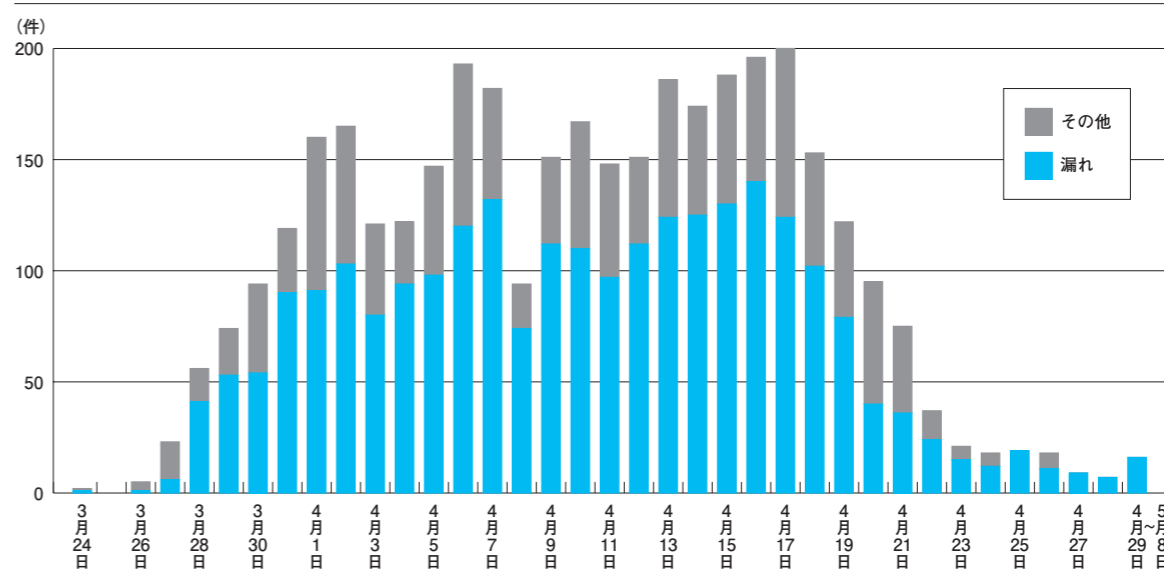
その間、仙台ガス工事協同組合およびJGA先遣隊との協議等、内管修繕の準備作業を並行して進め、3月24日の開栓地区から順次内管修繕の対応を開始した。その後、JGA開栓隊による開栓作業の本格化に伴い、開栓数が増加したことと連動して1日当たりの対応件数も急増し、ピーク日で200件に達した。現地調査等を含めた述べ出動件数は約3,700件で、最大時には57班136名の工事人体制で作業に取り組んだ。

対応件数のうち実際に被害を受けた内管の修繕は内管修繕B班と合わせ延べ2,482件に上ったが、JGAの指針に基づき算出した約4,000件(全需要家の1.1%)の被害想定は下回った。要因としては、ポリエチレン管の被害がなかったことが挙げられ、ポリエチレン管の導入が地震対策として効果的であることが裏付けられた。

公営住宅の機器修繕については、仙台ガスサービス

(株)と連携し、開栓地区に合わせて順次対応を行った。機器の被害内容として目立ったのは地震の揺れによるBF風呂釜の釜ズレで、525件の修繕を実施した。また、停電による給湯器の凍結も多発し、寒冷地の3月上旬という地理・季節条件の影響を受けた。

■内管修繕件数の推移



## ■復旧のあゆみ

- 【3月11日】 簡易ガス団地のボンベハウス点検実施(荒浜団地を除く11団地)  
異常のない支倉台・亀塚団地を除く9団地を供給停止
- 【3月12日】 簡易ガス団地(9団地・1752戸)個別閉栓
- 【3月15日】 簡易ガス特別供給条件申請
- 【3月17日】 内管復旧管理班・開栓班・導管復旧管理班・仙台ガス工事協同組合との内管修繕に関する事前協議開始  
簡易ガス団地の導管テスト開始
- 【3月18日】 簡易ガス団地の導管テスト完了(富谷ニュータウンで漏えい確認)
- 【3月19日】 富谷ニュータウン導管修繕完了  
内管修繕に関するJGAとの協議開始
- 【3月22日】 簡易ガス団地(9団地)開栓開始
- 【3月23日】 都市ガス供給再開  
内管復旧計画立案
- 【3月24日】 内管修繕対応開始
- 【3月25日】 簡易ガス団地(9団地)開栓完了
- 【4月6日】 簡易ガス特別供給条件追加申請
- 【4月8日】 前夜、余震発生のため簡易ガス団地(2団地)再開栓
- 【4月9日】 簡易ガス団地(2団地)再開栓
- 【4月24日】 泉・南営業所からの応援終了、工事人の体制縮小
- 【5月9日】 応急修繕対応完了(需要家側事情による一部未対応分を除く)  
以後、通報等に基づき随時対応継続



▲(応急仮設配管)  
灯外内管 ポリエチレン管および白管転がし(戸建住宅)



▲(応急仮設配管)  
私道共用管 白管転がし(戸建住宅)



▲(内管修繕仮設配管)  
灯外内管共用部 露出白管によるPS接続配管(アパート)



▲(内管修繕仮設配管)  
灯外内管 ヘッダー方式によるPSフレキ接続(アパート)